

校同期の守輪（横浜在住）が、NYアクターズスタジオで、リー・ストラスバーグ本人から学んだ演技の科学を伝える機会、今後とも年一回程度開催したいと思います。

二〇一七年秋からスタートした連続自主企画「マンズリーピアノ」は、二〇二〇年一月でひとまず休止。使用頻度が低かったピアノを活用すべく、ピアノスト辻千絵さんのコーディネートでは毎月、ピアノを使った催しを開催しました。二年半でみちがえるように音が出てきたピアノは、二〇一五年亡くなった母からスタジオへの贈り物で

ドラマシアターども便り 二〇一九年～二〇二〇年

江別ドラマシアターどもIV 安念優子

昨年暮れ、どもIVの建物が江別市都市景観賞をいただきました。大正一一年九七年前の建物を有効活用しているという点で選ばれたようです。

このレンガ建ての元郵便局がどもIVになって一五年、野幌駅裏のどもIから数えると今年で四〇年目に入ります。

昨年私達の劇団は、五月にヒモトタカヒロ・作演出「夜学」、八月安念智康・作演出『トド山第三分教場。パートIII二〇一九版』をドラマシアターどもIVで上演しました。

九月は、知床斜里の北海道演劇集団の仲間『劇団みずなら』が実行委員会を立ち上げ『トド山第三分教場。パートIII二〇一九版』を呼んでくれました。

した。追悼の想いを込めた企画は新たな段階に進みます。ピアノに限らず、民族音楽、古楽など、アコースティック楽器によるコンサートでのご利用が増えています。みなさん、とても響きが良いと言ってくださるのは嬉しいことです。

レッドベリースタジオは二〇二〇年一二月で、オープンから満二〇年を迎えます。さて今、あらためてこれから。

『トド山——』は代表の安念のライフワーク、北海道の戦後開拓の子供たちを描いた作品です。パートI・II・IIIとシリーズ物？で、テーマや主役の子供たちが変わってゆく……。どもの寅さんみたいな芝居です。

ゆめホールの公演後の交流会で、斜里・岩尾別の戦後開拓の歴史に携わっている方から「厳しい開拓の暮らしの中で、楽しい事なんかあったのかい？」と質問がありました。安念は「子ども視点からはどんな環境の中でも、喜びや楽しみを見つけて行くものじゃないか。。」と答えていました。

道内外の町に、縁のある人を頼りに公演の旅に出かけて

ゆく。仕事をしながら二〇人ほどが、スケジュールを合わせる苦労は大変ですが、それに勝るその土地の暮らしや人との交流は、芝居人生の大きな喜びです。

一二月は、恒例の「ども歳忘れ興行」芝居・人形浄瑠璃・語り・影絵・落語・踊・ジャズ・フォーク・ブルグラス・太鼓などなど、ジャンル問わずの二日間のお祭り。(一団二〇分) 今年は四八組、幼児から七〇代まで一三〇人の出演でした。

司会は代表の安念がつとめ、辛口の感想が人気で全道から参加者が集まります。(出演者も観客も同じ入場料) 在日の方や、弱視の若者、ろうあ者の家族、障害の垣根を越えたバンド・沖縄出身とアイヌの方のユニット・・・今年もしみじみマイノリティの空間だなあと感じ、ちょっと嬉しくなりました。

毎年楽しみに観に来て下さる常連さんがいます。劇団員は、運営と出演もしています。

昨年は、お隣の建物がマンションになり、借りていた駐車場が無くなりました。(長野県上田市の無言館に収められた江別の戦没画学生の油絵を持っていた、もと病院でした。)

暮れには、三二年続いた江別演劇鑑賞会が、会員減少で惜しまれて解散しました。

時代の波にさらされながら変化していく事を怖れず、今年も前に進んで行くように思います。

二月「江別の多喜二祭」と、三月「えべつ脱原発芸術

祭二〇二〇」の準備をしています。六月公演予定の、木下順二作「夕鶴」安念演出で稽古を始めました。今年もよろしくおねがいます。

二〇二〇・二・節分



ども興業「函館の自殺岩」キムシガン 2019.12



「トド山第三分教場パートⅢ 2019 版」 2019. 9



ども興業「プレグマ」柴田山 2019.12



ども興業「パパ漫才」 2019.12